

PHIL HAR MONY

25

February 2021
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

感染症予防対策についての取り組み

みなさまに安心して演奏をお楽しみいただけるように、
以下の感染症予防対策について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 会場内では、必ずマスクを着用し、手洗い、手指の消毒、咳エチケットにご協力ください。
- 感染予防のため、休憩中も含め、客席内ではご自身のお座席以外への着席はご遠慮ください。
- 入退場時および会場内では、まわりの方々との距離を確保した上で行動くださいますよう、ご協力をお願いいたします。また、混雑緩和のために入退場時に、制限をさせていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 当日は極力接触を避けるため、会場内での当日券販売、チケットの当日精算は行いません。必ず事前に発券されたチケットをお持ちの上、ご来場ください。
また、お連れ様のチケットをお預かりすることもできませんので、あらかじめご了承ください。
- 当日、チケット半券のもぎりは、係員の確認後、お客様ご自身でお願いいたします。
また、プログラムは所定の場所からお客様ご自身でお持ちください。
- ロビー等では大きな声での歓談はお控えください。
- 「ブラボー」等の掛け声はお控えください。
- サイン会は実施しません。また、楽屋口での出演者の入待ち・出待ちはお断りいたします。また出演者への面会やプレゼントもお断りいたします。
- 万が一、ご来場のみなさまの中から新型コロナウイルス感染者が発生した場合には、保健所など公的機関へチケット購入時にいただいたお客様の情報を提供する場合がございます。またその場合、複数枚をご購入いただいた方には、同伴者など、当日ご来場いただいた方の連絡先をお伺いいたします。あらかじめご承知おきください。

-
- 喫茶コーナーは休止しております。
 - 会場内での食事は控えください。また持ち込みもご遠慮ください。
 - NHK ホールの喫煙コーナーは休止しております。
 - クロークは休止しております。
 - ブランケット等の貸し出しサービスは休止いたします。必要に応じて、防寒の備えをお勧めいたします。
 - 会場内での他の公演のチケット販売は行いません。またCD等の販売もございません。
 - NHKホールでの公演について、終演後に運行していた渋谷駅行きの臨時バスは、3密（密閉・密集・密接）防止の観点から運休となります。

-
- 公演により座席数を制限している場合があります。
 - 会場内のドアノブや座席の手すりなどはあらかじめ消毒を実施します。
 - 会場内の常時換気、開場中および休憩中の客席扉の開放など空気の流れ替えに努めます。
 - スタッフもマスクの着用等、ご来場のみなさま同様に感染予防の対策を行います。また、業務の内容により、フェイスシールドやビニール手袋の着用をさせていただきます。
 - 厚生労働省による「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用を推奨いたします。

Philharmony

CONTENTS
FEBRUARY 2021

2

- 3 [公演プログラム] **NHKホール** | 2月6日、7日
- 8 [公演プログラム] **東京芸術劇場** | 2月12日、13日
- 13 [公演プログラム] **サントリーホール** | 2月17日、18日
- 18 [シリーズ] **N響百年史** | 第17回 | 関東大震災が日本の洋楽史を変えた! 片山杜秀
- 22 特別支援・特別協力・賛助会員
- 26 NHK交響楽団メンバー
- 27 Information / 2020-21シーズン公演日程
- 28 役員等・団友
- 表3 2021-22定期公演予定(日程・指揮者)

お客様へのお願い



公演中は携帯電話、
時計のアラーム等は
必ずお切りください



演奏は最後の余韻まで
お楽しみください



場内での録画、録音、
写真撮影は固くお断り
いたします



私語、パンフレットを
めくる音など、
物音が出ないように
ご配慮ください



演奏中の入退場は
ご遠慮ください



補聴器が
正しく装着されているか
ご確認ください

Special Thanks



NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

East Japan Railway Company

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2020年2月、ウィーン・コンツェルトハウスにて

©Lukas Beck

2/6 土 6:00pm

2/7 日 3:00pm

NHKホール

NHK Hall

February

6(Sat) 6:00pm

7(Sun) 3:00pm

指揮

尾高忠明

Tadaaki Otaka, conductor

チェロ

横坂 源

Gen Yokosaka, cello

コンサートマスター

白井 圭

Kei Shirai, concertmaster

武満 徹

3つの映画音楽 [12']

- I 訓練と休息の音楽—『ホゼー・トレス』より
 II 葬送の音楽—『黒い雨』より
 III ワルツ—『他人の顔』より

ショスタコーヴィチ

チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調

作品107 [28']

- I アレグレット
 II モデラート
 III カデンツァ
 IV アレグロ・コン・モート

— 休憩 (20分) —

シベリウス

交響曲 第1番 ホ短調 作品39 [38']

- I アンダンテ、マ・ノン・トロッポ
 —アレグロ・エネルジコ
 II アンダンテ(マ・ノン・トロッポ・レント)
 III スケルツォ: アレグロ
 IV 終曲(幻想曲風に): アンダンテ—アレグロ・モルト

Toru Takemitsu (1930–1996)

Three Film Scores

- I 'Music of Training and Rest' from "Jose Torres"
 II 'Funeral Music' from "Black Rain"
 III 'Waltz' from "Face of Another"

Dmitry Shostakovich (1906–1975)

Cello Concerto No. 1 E-flat Major
Op. 107

- I Allegretto
 II Moderato
 III Cadenza
 IV Allegro con moto

— intermission (20 minutes) —

Jean Sibelius (1865–1957)

Symphony No. 1 E Minor Op. 39

- I Andante, ma non troppo – Allegro energico
 II Andante (ma non troppo lento)
 III Scherzo: Allegro
 IV Finale (Quasi una fantasia):
 Andante – Allegro molto

Artist Profiles

尾高 忠明 (指揮)



© Masahisa Ohtaka

1947年生まれ。桐朋学園大学で齋藤秀雄に師事。1970年、第2回民音指揮者コンクールで第2位入賞。1972年、オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立音楽大学に留学し、指揮をスワロフスキーに、オペラをシュバンナーゲルに学んだ。以後、東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、BBCウェールズ・ナショナル管弦楽団、読売日本交響楽団、紀尾井シンフォニエッタ東京、メルボルン交響楽団、新国立劇場等で要職を担い、現在大阪フィルハーモニー交響楽団音楽監督などを務める。ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、BBC交響楽団、ベルリン放送交響楽団、hr交響楽団など世界各地のオーケストラにも定期的に客演を重ねる。サントリー音楽賞、ウェールズ音楽演劇大学名誉会員、大英勳章CBE、英国エルガー協会エルガー・メダル、ウェールズ大学名誉博士号など受賞多数。

指揮者デビューは、1971年、NHK交響楽団との放送収録。以後N響とは定期公演、全国各地での公演、放送収録など、さまざまな機会を通じて共演を重ね、2010年、正指揮者に就任。2012年には北京、天津、上海をめぐる中国ツアーを率いた。最近では、自身の曾祖父、渋沢栄一が主人公として描かれる2021年のNHK大河ドラマ『青天を衝け』のテーマ音楽収録で指揮を担当した。2012年に有馬賞、2019年に日本放送協会放送文化賞を受賞。

横坂 源 (チェロ)



© Gen Yokosaka

1986年生まれ。1999年10月、13歳で東京交響楽団とサン・サランス《チェロ協奏曲第1番》を演奏してデビュー。2002年、チェリストの登竜門として知られる全日本ビバホール・チェロコンクールで最年少優勝(15歳)。桐朋学園女子高等学校(男女共学)を卒業後、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマ・コースを経て、シュトゥットガルト国立音楽大学およびフライブルク国立音楽大学で研鑽^{けんさん}を積む。2009年5月には全ドイツ学生音楽コンクールで第1位(室内楽)を、2010年9月にはミュンヘン国際音楽コンクール・チェロ部門で第2位を受賞し、その後国際的なチェリストとしてのキャリアを本格化させる。バイエルン放送交響楽団をはじめ主要なオーケストラと共演を重ね、小澤征爾、岩城宏之、秋山和慶などの指揮者と協奏曲を演奏。鷺尾勝郎、毛利伯郎、ジャン・ギアン・ケラスの各氏に師事。ダーヴィド・ゲリンガス、ジャン・ワンなどのマスタークラスを受ける。

N響との共演は2009年、2012年、2013年に引き続き4回目。N響が主催する公演への出演は今回が初となる。

Program Notes | 増田良介

尾高忠明のシベリウスには定評がある。札幌交響楽団と録音した交響曲全集は高い評価を受けているし、N響とは、2014年2月に行われた定期公演で、《四つの伝説》を中心とするオール・シベリウス・プログラムを組み、名演を聞かせてくれた。また、武満徹も、世界初演を含めて尾高が早くから演奏し続けている作曲家で、各地でしばしば取り上げているほか、録音も多い。今回の演奏会は、尾高の得意とするこの2人の作品に、現在もっとも人気のあるチェロ協奏曲のひとつであるショスタコーヴィチの《チェロ協奏曲第1番》を加えた、聴き応えのあるプログラムとなっている。

武満 徹

3つの映画音楽

武満徹(1930~1996)の《3つの映画音楽》は、スイスで行われた第1回グシュタード・シネミュージック・フェスティバルのテーマ作曲家となった武満が、この音楽祭のために、彼が過去に作曲した映画音楽から3曲を選び、弦楽合奏のための組曲としたものだ。

第1曲は、勅使河原宏監督による『ホゼー・トレス』(1959)から《訓練と休息の音楽》。プエルトリコ出身のボクサーで、1965年にWBA・WBC世界ライトヘビー級統一王者となったホゼー・トレス(ホセ・トレス、1936~2009)を描く、25分ほどの短編記録映画だ。この曲では、ブルース風の「訓練」の音楽と、叙情的な「休息」の音楽が組み合わせられている。

第2曲は、今村昌平監督の映画『黒い雨』(1989)より《葬送の音楽》。井伏鱒二による同名の小説の映画化で、広島原爆で運命を狂わされた人々の悲劇を重厚な映像で描く。武満の音楽には、彼の純音楽作品に通じる透徹した厳しさと美しさがある。

第3曲は、勅使河原宏監督による映画『他人の顔』(1966)より《ワルツ》。小説家・劇作家として世界的に知られた安部公房(1924~1993)の同名の小説の映画化だ。顔面にひどいやけどを負った男(仲代達矢)が、精巧な仮面によって他人になりすまし、自分の妻(京マチ子)を誘惑する。武満は安部と交友関係があり、安部の関わった多くの映画で音楽を担当した。『他人の顔』では武満自身も少し出演している。ノスタルジックで官能的なこのワルツは映画に何度か出てくるが、ドイツ語の歌詞を付けて、ピアホールで前田美波里が歌う場面もある。

作曲年代	1994~1995年(編曲)
初演	1995年3月9日、ウィリアム・ボートン指揮、イングリッシュ・ストリング・オーケストラ
楽器編成	弦楽

ショスタコーヴィチ

チェロ協奏曲 第1番 変ホ長調 作品107

ドミートリ・ショスタコーヴィチ(1906~1975)の《チェロ協奏曲第1番》は、1959年の春から夏にかけて作曲され、20世紀を代表するチェリスト、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ(1927~2007)に献呈された。初演も彼によって行われている。

4つの楽章があるが、第3楽章はカデンツァなので、実質的には急緩急の3楽章という伝統的な協奏曲の形式に従っているとと言える。晦渋な音楽ではないが、第1楽章第2主題や第2楽章の2つの主題などにユダヤ音楽風の語法を忍び込ませたり、スターリンの愛唱歌だった《スリコー》の旋律を引用したりするなど、ショスタコーヴィチらしく、一筋縄でいかない部分もある。

第1楽章 アレグレット、ソナタ形式。軽快な行進曲風の第1主題ではじまる。ティンパニの一撃のあと登場する第2主題は、ユダヤ的な響きをもつ。なお、この協奏曲ではホルンがもうひとつの独奏楽器のように扱われており、展開部はホルンの吹く第1主題によって始まる。再現部でも第2主題はホルンが担当する。

第2楽章 モデラート。3部形式で、それぞれの部分には共通の導入部が付いている。主部では、独奏チェロが民謡風の哀愁を帯びた旋律を歌う。中間部は、導入部の音型から導かれた主題が高揚していく。

第3楽章 カデンツァ。長大なカデンツァを独立した楽章としている。前後の楽章と切れ目なしに演奏される。

第4楽章 アレグロ・コン・モート。勢いよく下行する音型をティンパニが止める騒々しい主題で始まる。途中に、弦がミミドレミ、木管がシソラという音型で応答する箇所があるが、これはスターリンの愛唱歌《スリコー》の変形である。

作曲年代	1959年春~7月20日
初演	1959年10月4日、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ(チェロ)、エフゲーニ・ムラヴィンスキー指揮レニングラード・フィルハーモニー交響楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2(コントラファゴット1)、ホルン1、ティンパニ1、チェレスタ1、弦楽、チェロ・ソロ

シベリウス

交響曲 第1番 ホ短調 作品39

フィンランドの作曲家ジャン・シベリウス(1865~1957)は生涯で7つの交響曲を作曲した。《交響曲第1番》は、33歳のときの作品だ。当時の彼は、《伝説》や《四つの伝説》などの交響詩を発表し、すでに作曲家として個性を確立していた。この作品もロマン性と

民族性を融合した彼らしい傑作だ。

シベリウスは、ベルリン滞在中だった1898年4月末に、妻アイノ宛ての手紙でこの曲の構想を伝えている。しかし、本格的に作曲を開始したのは5月末にヘルシンキに帰ってからだだったようだ。その後彼は、12月に家族と離れてケラヴァに移住し、作曲を続けた。初演は翌1899年4月26日に行われ、成功を収めたが、1900年にはさらに大幅な改訂が行われている。

第1楽章 アンダンテ、マ・ノン・トロップーアレグロ・エネルジコ。クラリネットの寒々としたホ短調の序奏に始まるが、明るくすがすがしい第1主題が現れると、一気に雰囲気が変わる。第2主題はロ短調で、木管が切々と歌う。ファンタジックな展開部を経て、楽章の終わりはホ短調に戻り、2つのピチカートで閉じられる。

第2楽章 アンダンテ(マ・ノン・トロップ・レント)。弱音器を付けたヴァイオリンとチェロの歌う変ホ長調の主題と、ファゴットの吹くト短調の第2主題が対比される。両主題ともおだやかな性格だが、楽章の後半では激しいクライマックスが築かれる。

第3楽章 スケルツォ：アレグロ。ヴァイオリンとチェロのピチカートに伴われたティンパニの力強いソロに始まる。中間部ではテンポが遅くなり、コラル風のホルンを中心とする音楽となる。

第4楽章 終曲(幻想曲風に)：アンダンテ—アレグロ・モルト。序奏付きのソナタ形式。悲愴感のある序奏は、第1楽章の序奏と同じ主題だ。やがてテンポが速くなって第1主題が提示され、緊迫した雰囲気の主部が始まる。しかしその音楽は突然止まり、ヴァイオリンが広々としたハ長調の第2主題を歌う。再現部では、この第2主題が広々と歌われて高揚するが、最後にはやはりホ短調に戻り、第1楽章とよく似た2つのピチカートで静かに全曲を閉じる。

作曲年代	1898年～1899年初頭、1900年改訂
初演	1899年4月26日、作曲家自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団 [改訂版]1900年7月1日、ロベルト・カヤヌス指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニー管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ2)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、大太鼓、シンバル、トライアングル、ハーブ1、弦楽

増田良介 | Ryosuke Masuda

大阪学院大学国際センター講師。専門はシヨスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽と後期ロマン派音楽。

2/12 **金** 6:00pm*
2/13 **土** 2:00pm

東京芸術劇場

Tokyo Metropolitan Theatre

February

12(Fri) 6:00pm*

13(Sat) 2:00pm

指揮

熊倉 優

Masaru Kumakura, conductor

ヴァイオリン

イザベル・ファウスト

Isabelle Faust, violin

コンサートマスター

篠崎史紀

Fuminori Maro Shinozaki, concertmaster

※当初予定していた開演時刻が変更となりました。

スメタナ

歌劇「売られた花嫁」—3つの舞曲

[11']

I ポルカ

II フリアント

III 道化師の踊り

シマノフスキ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 作品35

[23']

ヴィヴァーチェ・アッサイ—アンダンティーノ

—ヴィヴァーチェ・スケルツァンド—アレグレット

—ヴィヴァーチェ

—休憩(20分)—

ドヴォルザーク

交響曲 第6番 二長調 作品60 [41']

I アレグロ・ノン・タント

II アダージョ

III スケルツォ(フリアント):プレスト—トリオ

IV 終曲:アレグロ・コン・スピリト

Bedřich Smetana (1824–1884)

“The Bartered Bride,” opera

– Three Dances

I Polka

II Furiant

III Dance of the Comedians

Karol Szymanowski (1882–1937)

Violin Concerto No. 1 Op. 35

Vivace assai – Andantino – Vivace scherzando

– Allegretto – Vivace

— intermission (20 minutes) —

Antonín Dvořák (1841–1904)

Symphony No. 6 D Major Op. 60

I Allegro non tanto

II Adagio

III Scherzo(Furiant): Presto – Trio

IV Finale: Allegro con spirito

Artist Profiles

熊倉 優 (指揮)



1992年東京生まれ。16歳で作曲を、大学入学時より指揮を始める。桐朋学園大学(作曲専攻)卒業および同研究科修了。指揮を梅田俊明、下野竜也に師事。2016年、第26回京都フランス音楽アカデミー最優秀賞(第1位)および第12回ドナウ国際指揮者コンクール第2位受賞。2018年には、第18回東京国際音楽コンクール〈指揮〉で第3位に入賞。2016年から2019年まで、NHK交響楽団首席指揮者バーヴォ・ヤルヴィおよび、同団アシスタントとして定期公演等に携わり、2018年、「ほっとコンサート」でN響を初指揮。2020年7月には感染症拡大による演奏活動休止後、N響にとって初めての演奏活動となった「希望のコンサート」(放送演奏)でベートーヴェン《交響曲第1番》などを指揮した。さらに同年、「NHK交響楽団11月公演」にて、メンデルスゾーンとシューマンの作品による、本格的なドイツ・プログラムを披露。近年はN響のほかにも、全国の主要オーケストラとも共演を重ね、シンフォニーをはじめ、オペラ、バレエの分野など幅広く活躍。また欧州ではマスタークラスにおいて、カルロヴィ・ヴァリ交響楽団、ノース・チェコ・フィルハーモニー管弦楽団(デブリツェ)と共演。最近はコロナ禍において、海外からの来日指揮者の代役や配信公演にも携わり、次代を担う若手指揮者として注目を集めている。2021年春以降には欧州に拠点を移して、研鑽^{けんさん}と活動を予定している。

イザベル・ファウスト(ヴァイオリン)



ドイツ南西部のエスリンゲン生まれ。若くしてレオポルト・モーツァルト国際ヴァイオリン・コンクールおよびバガニーニ国際ヴァイオリン・コンクールで優勝し、一躍世界の注目を集める。これまでに、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ボストン交響楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団、フライブルク・バロック管弦楽団などのオーケストラ、クラウディオ・アバド、ジョヴァンニ・アントニーニ、フランス・ブリュッヘン、ジョン・エリオット・ガーディナー、ベルナルト・ハイティンク、ダニエル・ハーディングなどの指揮者と共演している。バロックから現代に至るまで、幅広い時代にわたるレパートリーを、個々の作品に応じたスタイルと楽器、そして現代の知見に基づいて演奏することを信条とし、その知性に裏付けられた解釈で聴衆を魅了する。レコーディングも数多く、バッハ『無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ』や『ベートーヴェン&ベルク:ヴァイオリン協奏曲集』は名盤として親しまれている。

N響の舞台への初登場は2012年で、プロコフィエフ《ヴァイオリン協奏曲第1番》を披露した。今回で2度目の共演。

Program Notes | 太田峰夫

チェコとポーランド。王国としてそれぞれに長い歴史を持つものの、近代には大国の支配下に置かれ、苦難の道を歩んだ。ほかの分野と同様、これらの地域の音楽家たちは時代の状況に応じてナショナリズム運動に共感したり、西欧の最先端の様式を取り入れたりと^{うよきよくせつ}紆余曲折に満ちた人生を送らざるをえなかった。本日演奏する3曲はそれぞれの作曲家のキャリアの転換点に書かれたものばかり。通して聴けば、わずか50年ほどの間にこれらの地域の音楽家がいかに多くの様式を学び、その学びをユニークな成果へとつなげていったのかを実感できるはずだ。

スメタナ

歌劇「売られた花嫁」—3つの舞曲

《歌劇「売られた花嫁」》はベドルジヒ・スメタナ(1824~1884)にとって2作目にあたるチェコ語オペラである。舞台はボヘミア地方の農村。村娘マルジェンカにはイエニークという恋人がいるが、結婚仲介人ケツァールは彼女を、富農ミーハの息子ヴァシェックと結婚させようとする。自分の恋人が「ミーハの息子」と結婚するのを認める代償として、イエニークはケツァールに現金を受け取る約束をしてしまう。いろいろな混乱の後、最後にイエニークがミーハの前妻の息子であることが明かされてハッピーエンドというのがオペラの筋だ。

いわば軽い作品であり、形式も当初は、せりふつきの2幕の音楽劇のかたちにとどまっていた。ところが1866年5月30日の初演の評判が今ひとつだったことから、スメタナは全体を3幕に構成し直し、音楽的に「チェコの」な要素を強調することを決めた。本日演奏する3つの舞曲は、1870年9月の決定稿までの数次にわたる改稿の中で書き足された音楽であり、いずれもボヘミア地方の民俗舞踊の様式をふまえている。

第1曲〈ボルカ〉(2/4拍子、モデラートーモデラート・アッサイ)は序奏の後、主題(A)を中心に、AA'ABABAの構成で展開していく。**第2曲〈フリアント〉**(3/4拍子、アレグロ・エネルジコ)は「農民よ、農民よ」という、有名な民謡に基づく。「フリアント」はボヘミア地方の舞曲の一種であり、特有のリズム型(2+2+2+3+3拍子)を特徴とする。序奏つきの3部形式。**第3曲〈道化師の踊り〉**(2/4拍子、ヴィヴァーチェ)は「スコチナー」と呼ばれる2拍子の躍動的な舞曲である。

作曲年代	[ボルカ]1868~1869年 [フリアント]1869年 [道化師の踊り]1869年
初演	[ボルカ]1869年1月29日、プラハのチェコ仮劇場での《売られた花嫁》上演の一部として(おそらく作曲家本人の指揮) [フリアント・道化師の踊り]1869年6月1日、プラハのチェコ仮劇場での《売られた花嫁》上演の一部として(おそらく作曲家本人の指揮)
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ2、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、弦楽

シマノフスキ

ヴァイオリン協奏曲 第1番 作品35

第1次世界大戦の開戦(1914年)を受け、ポーランドの作曲家カロル・シマノフスキ(1882~1937)は生まれ故郷ティモシュフカ(現在はウクライナ領)に逃れ、そこで3年間、読書と創作活動に明け暮れた。《ヴァイオリン協奏曲第1番》(1916年)はこの新しい創作時期を代表する作品のひとつであり、ヴァイオリニストだった親友パウル・コハニスキのために書かれた。2人は1916年8月に落ち合い、相談し合いながら細部を仕上げたようだ。

この時期のシマノフスキは古典古代やイスラム世界の文学など、いろいろな文献を読みあさっているが、本作を書くにあたり、彼は同時代の象徴主義詩人タデウシュ・ミチンスキの『5月の夜』という詩に影響を受けたという。構造上の対応関係は見当たらないが、おそらく本作冒頭の独特な音響は、ミチンスキの詩の、汎神論的な自然描写や官能性(「女神との結婚」が語られる)に触発されたものだろう。

楽曲はひとつながりの音楽として書かれており、大きくわけて5つの部分からなる。第1の部分(ヴィヴァーチェ・アッサイ)ではまず弦楽器のざわめきを背景に、短い動機が現れては消えていく(リトルネッロのように何度も戻ってくるので、Rとしよう)。独奏ヴァイオリンがのびやかに歌ったのち、激しいクライマックスを経て、冒頭の音楽(R)が戻ってくる。第2の部分(アンダンティーノ)はおもに3/4拍子で書かれており、独奏ヴァイオリンが情熱的な主題を奏でる(A)。再びRを経由し、第3の部分(ヴィヴァーチェ・スケルツァンド)では、短いエピソードをはさみつつ、大規模な無窮動の音楽(B)が展開される。第4の部分(アレグレット)はゆったりとした2拍子のエピソードだ(C)。第5の部分(ヴィヴァーチェ)は圧縮された再現部であり、B、独奏ヴァイオリンのカデンツァ(コハニスキの作曲)から、Aを素材とする作品最大のクライマックスへと至る。やがてR、A、Cの回想を経て、曲は静かにとじられる。

なお、本日の公演では、作曲者の手で2管編成に縮小された版を演奏する。

作曲年代	1916年夏から秋にかけて
初演	1922年11月1日ワルシャワ・フィルハーモニック・ホールでのワルシャワ・フィルハーモニー交響楽団演奏会にて(ヨーゼフ・オジミンスキの独奏、エミル・ムウナルスキの指揮)
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、トライアングル、グロッケンシュピール、大太鼓、小太鼓、シンバル、サスペンデッド・シンバル、タンブリン、ハープ1、ピアノ1、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ドヴォルザーク

交響曲 第6番 二長調 作品60

《交響曲第6番》はアントニン・ドヴォルザーク(1841~1904)が「チェコ人作曲家」として

国際的に認められていく時期に書かれた、いわば過渡期の作品である。名指揮者ハンズ・リヒターの発案で、本作は彼とウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のために作曲された。

一方において、本作はドヴォルザークがいかに深くドイツの交響曲の伝統を研究していたかをよく示している。とくにブラームスの《第2番》との類似は、かなり明白だ。第1楽章はともに3拍子で書かれ、弧を描くような、息の長い主要主題を持つ。終楽章はともに「2/2拍子、アレグロ・コン・スピリト」で書かれ、冒頭では弦のセクションが主要主題を弱音で奏でる。両端楽章の調性や楽器編成も同じ。ブラームスの《第2番》が1877年にほかならぬリヒターの指揮で、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されていることから、本作の構想にあたり、年長のブラームスの交響曲がドヴォルザークに何らかの影響を与えた可能性は十分に考えられるだろう。ただし、トランペットにたびたび主要主題を吹かせていることが端的に示すように、色彩的な響きに対するドヴォルザークの強い好みも、本作に独自の魅力をもたらしている。

そして他方において、第3楽章でフリアントという、「チェコの」な舞曲を用いている点でも、本作は新機軸を示している。チェコ語をボヘミア地方の公用語のひとつと認めた言語令をきっかけに、当時のオーストリア・ハンガリー二重君主国では、チェコ系住民とドイツ系住民との間の緊張が高まっていた。そのことからすれば、交響曲というジャンルにあえて「チェコの」な要素を持ち込もうとする彼の試みが、当時相当に過激に映ったことは想像がつかだろう。

作品は1880年末には完成していたが、上記の事情も相まって、オーケストラは本作をすぐには演奏しなかった。本作の世界初演がウィーンではなくプラハで行われたのはそのような事情による。それでも、一貫した協力的態度への感謝のしるしとして、ドヴォルザークは本作をリヒターに献呈している。

第1楽章 (アレグロ・ノン・タント) は3/4拍子、ニ長調、ソナタ形式からなる。**第2楽章** (アダージョ) は2/4拍子、変ロ長調の緩徐楽章。主要主題(A)を中心にした自由なロンド形式(ABACABA)。**第3楽章** (スケルツォ[フリアント]:プレスト) は3/4拍子、ニ短調のスケルツォ楽章で、自作のフリアント主題に基づく。3部形式。**第4楽章** (アレグロ・コン・スピリト) は2/2拍子、ニ長調、ソナタ形式。最後は急速のテンポとともに、はなやかに終わる。

作曲年代	1880年8月27日～10月15日
初演	1881年3月25日、プラハのジョーフィーン宮にて、アドルフ・チェフ指揮、チェコ国民劇場管弦楽団
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ1、弦楽

太田峰夫 | Mineo Ota

宮城学院女子大学教授。おもな研究領域は20世紀ハンガリー音楽史、とりわけバルトークの音楽。

2/17 水 6:00pm^{*}
2/18 木 6:00pm^{*}

サントリーホール

Suntory Hall

February

17(Wed) 6:00pm^{*}

18(Thu) 6:00pm^{*}

指揮

下野竜也

Tatsuya Shimono, conductor

ピアノ

清水和音

Kazune Shimizu, piano

コンサートマスター

伊藤亮太郎

Ryotaro Ito, concertmaster

※当初予定していた開演時刻が変更となりました。

シューマン

序曲「メッシーナの花嫁」作品100 [9']

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調

作品73「皇帝」[38']

I Allegro

II アダージョ・ウン・ポ・コ・モート

III ロンド: Allegro、マ・ノン・トロツポ

— 休憩(20分) —

シューマン

交響曲 第3番 変ホ長調

作品97「ライン」[32']

I 生き生きと

II スケルツォ: 適切な動きとともに

III 速くなく

IV 荘重に

V 生き生きと

Robert Schumann (1810–1856)

“Die Braut von Messina,”

overture Op. 100

Ludwig van Beethoven (1770–1827)

Piano Concerto No. 5 E-flat Major

Op. 73 “Emperor”

I Allegro

II Adagio un poco moto

III Rondo: Allegro, ma non troppo

— intermission (20 minutes) —

Robert Schumann

Symphony No. 3 E-flat Major

Op. 97 “Rheinische”

I Lebhaft

II Scherzo: Sehr mässig

III Nicht schnell

IV Feierlich

V Lebhaft

Artist Profiles

下野竜也(指揮)



1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室に学ぶ。1996年、シエナのキジアーナ音楽院に留学し、オーケストラ指揮のディプロマを取得。1997年、大阪フィルハーモニー交響楽団の指揮研究員となり、朝比奈隆などの巨匠の下で研鑽^{けんさん}を積んだ。1999年から2001年まで、文化庁派遣芸術家在外研修員としてウィーン国立演劇音楽大学に留学。

2000年、東京国際音楽コンクール(指揮)で第1位および齋藤秀雄賞を受賞、翌年にはブザンソン国際指揮者コンクールで優勝し、以降精力的な活動を開始。ローマ聖チェチーリア国立アカデミー管弦楽団、ミラノ・ヴェルディ交響楽団、ストラズブル・フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、シュトゥットガルト放送交響楽団など海外著名オーケストラに客演する一方、国内では読売日本交響楽団で正指揮者および首席客演指揮者、京都市交響楽団で常任客演指揮者および常任首席客演指揮者を歴任。2011年に広島ウインドオーケストラ音楽監督に、2017年には広島交響楽団の音楽総監督に就任した。

N響を初めて指揮したのは2005年。以降定期的に共演を重ね、20世紀音楽などを取り入れた意欲的なプログラミングで注目を集める一方、直近の2020年9月の共演では、シューマン《交響曲第4番》などで味わい深い演奏を聴かせ、大きな賞賛が寄せられた。

清水和音(ピアノ)



東京生まれ。スイスのジュネーヴ音楽院でルイ・ヒルトブランに師事。1981年、20歳でバリのロン・ティボー国際コンクール・ピアノ部門で優勝し、あわせてリサイタル賞を受賞する。1982年、デビュー・リサイタルを開催。1983年、第9回日本ショパン協会賞を受賞。同年「プラハの春音楽祭」にて、プラハ室内管弦楽団と共演。この成功により1984年、ブラティスラヴァ音楽祭のオープニングに、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団のソリストとして招かれる。また同年、ミュンヘンの名門ホール、ヘラクレス・ザールでリサイタルを行った。これまでにロジェストヴェンスキー指揮ロンドン交響楽団、ノセダ&ゲルギエフ指揮マリンスキー歌劇場管弦楽団、アシュケナーズ指揮シドニー交響楽団など、国内外の主要オーケストラに定期的に登場。室内楽でも盛んに活動を行っている。

N響の舞台に初めて出演したのは、1982年の「若い芽のコンサート」でのこと。以後、定期公演や全国各地の演奏会で、50回以上にわたり共演。ベートーヴェン、チャイコフスキー、ラフマニノフなどの協奏曲で、確かな技術に裏打ちされた、表現力に富んだソロを披露してきた。

Program Notes | 小岩信治

本公演の演目はいずれも、主調が楽譜上同じ調号で表される（フラット3つのハ短調と変ホ長調）。それゆえ、別の作曲家の異なるジャンルの楽曲にもかかわらず、この3曲は舞台上の楽員にも聴き手にもひとつの「続きもの」として体験できるだろう。本日最初に聞こえてくるハ短調からスタートして、ベートーヴェンがその《交響曲第5番「運命」》で闇から光への変化を表現したとすれば、本日のプログラムは（《「運命」交響曲》が到達するハ長調ではなく）「英雄的」な変ホ長調に向かうことで、行き先の見えない私たちに希望を指し示すだろう。

このような状況のもとでコンサートに足を運ばれる方々には強調するまでもないことだが、困難なときこそ先人たちの苦しみと喜びの表現によって私たちは力づけられる（たとえシューマンの喜びが、その後の彼の生涯をみれば一時のものであったとしても）。本日のようにその機会をもたらす（音楽）芸術、そしてそもそも人文・社会に関する知が、今こそ切に求められている。

シューマン

序曲「メッシーナの花嫁」作品100

戯曲『メッシーナの花嫁』は、昨年とくに多くの方の耳に入ってきたであろう「歓喜に寄す」の作者シラーの作品で、1803年に演劇の舞台にかけられた。シチリア島メッシーナの王子兄弟が、生き別れて育った妹とそれぞれ恋に落ち、憎しみゆえに弟が兄を殺してしまう悲劇である。ローベルト・シューマン（1810～1856）は1851年、この作品のオペラ化に逡巡した末それをあきらめて、この序曲を完成させた。

「かなりゆっくり」と指示された序奏部（ハ短調、3/4拍子）に導かれて「とても力強い」主部（ハ短調、2/2拍子）が始まるが、冒頭から全体を原作の重苦しいトーンが支配する。シューマン自身は次のように書き残した。「私は自作に関して、できがよく深みがあるものほど、1回では大部分の聴衆に理解されないということに慣れていますが、この序曲の場合は着想においてとても明快なのですぐに理解できていると思っています」（1851年12月7日、この作品のオペラ化を勧めたポール宛て）。途中管楽器主体の柔らかな旋律（第2主題）が1回目は変イ長調、終盤の2回目には変ホ長調で現れ、2回目の響きは本日のコンサートの「続き」を指し示すことになる。

なお『メッシーナの花嫁』のオペラ化は約30年後の1883年、チェコの作曲家ズデニェク・フィビヒによって実現した。

作曲年代	1850～1851年
初演	1851年3月13日、デュッセルドルフ
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

ベートーヴェン

ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 作品73「皇帝」

この曲は、テクノロジーの集積たるピアノを知悉していた「ハイテク・マニア」ルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン(1770～1827)による、当時の楽器の限界への挑戦である。冒頭はそれを証する一例で、彼は今日よりもはるかに小ぶりであったピアノを大オーケストラと対置し、巧みな書法でその存在感をアピールさせる。この曲はまた、《交響曲第3番「英雄」》と同じ変ホ長調の、堂々たる風格の両端楽章(第1楽章アレグロ、4/4拍子、第3楽章ロンド：アレグロ・マ・ノン・トロppo、6/8拍子)、そして比類ない調和の世界を響かせる第2楽章(アダージョ・ウン・ポコ・モート、ロ長調、2/2拍子)によって、クラシック音楽の世界で燦然と輝く光のような存在であろう。

けれどもその作曲の頃にベートーヴェンは闇のなか、少なくとも闇と隣り合わせであった。それは1809年夏、フランス軍によるウィーン包囲の時期である。この曲にはのちにその「英雄的」な性格からとくに英語圏で「皇帝」というニックネームが定着するが、それは作曲者の想定外だっただろう。当時彼らウィーンの人々を先行きの見えない不安に陥れていたのは、そのわずか5年前、彼が渾身の大作《交響曲第3番「英雄」》を献呈しようとした「ある偉大な人物」ナポレオンが皇帝になった国、フランスだったのだから。最新の研究はそのような厳しい時期にこの曲が生まれたことを示しており、そこでは変ホ長調は希望への切実な音楽表現に用いられた。

作曲年代	1809年夏ころ
初演	1811年1月13日、ウィーン、ルドルフ大公のピアノ独奏
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽、ピアノ・ソロ

シューマン

交響曲 第3番 変ホ長調 作品97「ライン」

1851年3月19日、シューマンはポンの出版社ジムロックに宛てて、「(ライン川沿いでの)生活が反映している」交響曲の完成を告げた。彼はその前年にデュッセルドルフ市音楽監督として新しい生活を始めたばかりであった。作曲の契機となったのはシューマンが

妻クララと「ケルン大聖堂を訪問したときの印象」である。彼が完成させた交響曲4曲のうち、出版順ゆえに第3番となったが最後の作品で、その快活な曲調ゆえ、《第1番》と並んで好まれてきた。

「生き生き」という指示のもと力強い変ホ長調の和音で始まる**第1楽章**(3/4拍子)には、新しい生活への作曲者の期待も感じ取れるだろう。**第2楽章**はゆるやかなテンポのスケルツォ(「適切な動きとともに」、ハ長調、3/4拍子)で、これに管楽器の美しい旋律が連なる**第3楽章**(「速くなく」、変イ長調、4/4拍子)が続く。こうして主調変ホ調から3度ずつ低い調が用いられたあと再び変ホ音を軸とする世界に戻るのだが、まず、伝統や古めかしさの表れとしての対位法書法が特徴的な変ホ短調の楽章が置かれる(**第4楽章**、4/4拍子)。金管楽器を主体とするこの楽章にシューマンは一旦、ケルン大聖堂の印象を描いたかのように「荘厳な儀式を共にする性格で」と付したが、のちに削除し、「荘重に」との指示のみが残った。これに「生き生き」と記された**第5楽章**(2/2拍子)が続き、楽曲の中心(そして本日のプログラムの「ゴール」)である変ホ長調の和音が高らかに鳴り響く。

作曲年代	1850年11月7日～12月9日
初演	1851年2月6日、デュッセルドルフ、作曲家自身の指揮
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ1、弦楽

小岩信治 | Shinji Koiwa

一橋大学言語社会研究科教授。専門はピアノ協奏曲を中心とする19世紀の音楽史。

N響百年史

第十七回 関東大震災が日本の洋楽史を変えた！

片山杜秀 — Morihide Katayama

二〇二六年のN響創立百周年に向け、NHK-FM「クラシックの迷宮」のパーソナリティとしても馴染みの思想史研究者で音楽評論家の片山杜秀さんが、N響の歴史を時代背景とともに、独自の視点からひもときます——。一流のロシア人音楽家を擁するオーケストラを招聘すべくハルビンへ渡った山田耕筈。その直後、未曾有の大震災が東京を襲います。

東京シンフォニー・オーケストラが切り拓いた洋楽新時代

関東大震災がもし起きていなかったら？日本のクラシック音楽の歴史はずいぶん違ったかもしれない。われわれの知っている、近代日本のプロフェッショナルなオーケストラの歴史とは、山田耕筈が音頭を取り、そこに近衛秀麿このえひでまろが加わって、ついに近衛が主導権を取り、新交響楽団、今日のNHK交響楽団が1926(大正15)年に誕生し、この国の交響楽運動に真の夜明けをもたらしたという歴史である。ところが1923年の年明けからの東京の音楽界は、そういう歴史とは違う方向へと急激に転がり始めていた。もしもその流れがああ9月1日で断ち切られていなければ、きっとそのまま別の歴史へと突き進んでいただろう。

大倉財閥の大倉喜七郎が自ら経営する帝国ホテルを本拠地として立ち上げた、白系ロシア人の楽士たちを主軸とする東京シンフォニー・オーケストラは、1923年4月にお披露目の演奏会を開き、その後も順調に育っていた。翌月の演奏会では、ベートーヴェンの《序曲「コリオラン」》にシューベルトの《未完成交響曲》にリムスキー・コルサコフの《スペイン奇想曲》と、オーケストラ音楽ファン垂涎すいぜんの名曲プログラムで名演を披露し、日本音楽界に次なる時代が開けつつあることをますます印象づけた。

この新しいオーケストラは、学生向きに立ち席を安く売り出したことでも話題を呼んだ。第1次世界大戦中の好況下にブルジョワ市民階級の子弟として、西洋音楽にも早くから親しみつつ幼少年期を過ごした世代が、中学生、旧制高校生、大学生となって、本物のオーケストラを聴きたがるようになり始めていた。そんな世代的・階層的な需要を、学生向け廉売チケットという発

想がうまくつかまえた。このオーケストラは時流を読むのにも敏であった。もちろん、コンサートマスターのステンピンスキーを中心とする楽団の技量は、当時の日本では圧倒的だったようだし、指揮者のジャック(ジャクストム)・ゲルシュコヴィチも立派なオーケストラ指揮者であった。

シベリアから来た ユダヤ人指揮者ゲルシュコヴィチ

ゲルシュコヴィチはシベリアのイルクーツクの貧しいユダヤ人の家に、1884年に生まれた。山田耕筰よりも2つ年上になる。イルクーツクはバイカル湖沿いにあるシベリア鉄道が通り、モンゴルとの国境も近い。ロシアの東方政策の要衝^{ようしよく}であり、大教会も歌劇場もオーケストラもあった。ゲルシュコヴィチの父親はヴァイオリンが大の上手だったという。そんな東方ユダヤ人らしい家庭で、ゲルシュコヴィチは少なくとも音楽的には恵まれて育ち、フルートを得意とし、どうしても音楽家になりたいと願い、だいたい6年が経ってからロシア帝国の首都に出、サンクトペテルブルク音楽院で学んだ。ついで師匠はリムスキー・コルサコフとグラズノフとニコライ・チャレプニン^{ちやれぷにん}。錚々たる顔ぶれである。

ゲルシュコヴィチはやがて目標を指揮者に定め、30歳近くになって音楽院を卒業すると、奨学金を得てベルリンに留学。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を率いていたアルトゥール・ニキシュに学ぶ。でも1914年からは第1次世界大戦が始まり、露独は敵同士に。ゲルシュコヴィチは帰国して軍楽隊の指揮者になる。当時の軍楽隊は、ドイツでもロシアでも日本でも、吹奏楽から管弦楽へと進化しつつあった。管楽器と打楽器で軍の士気を鼓舞するだけでなく、広く一般市民に軍への支持を取り付ける

のに役立つ存在とならねばならず、そのためには芸術的香気も必要とされ、したがって軍楽隊に弦楽器を加えるのが時代の趨勢^{すうせい}となっていた。ゲルシュコヴィチは軍楽隊といっても、軍所属の交響楽団の指揮者だった。

ところがキャリアは短く終わる。1917年からのロシア革命で、ロシア帝国の軍隊も革命側と反革命側に分裂^{がかい}瓦解して、軍楽隊どころではなくなった。ゲルシュコヴィチは故郷のイルクーツクに帰り、音楽学校を開く。たいへん繁盛したという。が、革命の影響は次第にバイカル湖周辺にも及び、ゲルシュコヴィチはというと革命派と折り合いが悪かった。新しい国においては身が危うい。そんなシベリアには、日本が反共産主義政権の樹立を目指して出兵し、1920(大正9)年1月には日本軍がイルクーツクを占領したこともある。そのときゲルシュコヴィチは強く日本を意識したろう。ついにイルクーツクを離れ、亡命の道を選び、ハルビンを経て来日し、大倉喜七郎の客分になった。大倉は、山田や近衛のような日本人ではなく、ロシア人指揮者を擁するのが、東京に外国人主体のプロ・オーケストラを作ろうとする構想にはふさわしいし実際的だと考えたのだろう。

ゲルシュコヴィチの率いる東京シンフォニー・オーケストラは、演奏実績を重ねながら、外国人メンバーの増強に励んだ。木管楽器やピアノやハープに、ドイツ人やオーストリア人や白系ロシア人の優れた楽士を次々と加えていった。もちろん日本人の優秀な楽士も集め続けた。体裁がだんだん整ってきた。

1923年は日本洋楽史のエポック

この大倉喜七郎の新発想の交響楽運動に

刺激されたかのように、1923(大正12)年の東京では洋楽史を活気づけ新局面を開くようなコンサートが目白押しになった。特に注目すべきは海軍軍楽隊による管弦楽演奏の急激な充実である。陸軍も海軍も軍楽隊員を東京音楽学校に派遣して弦楽器を習わせ、管楽器と弦楽器の二刀流に育てるべく努力していたのだが、それが実を結び始めたのが1923年で、特に海軍軍楽隊は、田中豊明楽長のもと一般市民向け演奏会のプログラムの本格化をはかり始めた。日比谷公園の野外奏楽堂における週末のコンサートで、5月19日にはベルリオーズの《序曲「ローマの謝肉祭」》を、8月11日にはダンディの《魔の森》を披露した。しかし、極め付きは、6月30日の帝国ホテル大宴会場(東京シンフォニー・オーケストラのメインの演奏会場でもある)での、海軍シンフォニー・オーケストラと銘打っての「大音楽演奏会」であって、大倉喜七郎財界人、海軍関係者、政界や官界の代表者、諸外国の大使が居並ぶなか、田中楽長の指揮で、ドヴォルザークの《交響曲第9番「新世界から」》(日本初演)、ボロディンの《交響詩「中央アジアの草原で」》、サン・サーンスの《歌劇「サムソンとデリラ」》からの〈バッカナル〉などを演奏した。この日の《新世界から》は軍楽隊の管弦楽に期待される水準をはるかに超えた、猛練習の成果ならではの至上の名演として関係者に長く語り継がれた。

また1923年は、来日する有名演奏家や演奏団体が急増した年でもあった。1月から2月にかけては、イタリアや上海や香港から寄せ集められた白人歌手たちによる「イタリア歌劇団」が、帝国劇場でなんと11演目を延べ10日にわたって上演した。ロッシーニの《セビリアの理髪師》、ベッリーニの《ノルマ》、ヴェルディの《リゴレット》、プッチーニの《蝶々夫人》、レオンカ

ヴァルロの《道化師》、その他。イタリア歌劇の名作が勢ぞろいした。3月にはギルバート・サリヴァン喜歌劇団が有楽町の有楽座で興行。4月には、大ピアニスト、レオポルド・ゴドフスキが全ショパン・プログラムのリサイタルを3回もやはり有楽座で開いた。そして5月の1日から5日までは帝国劇場で、毎日違う曲目による、人気絶頂のヴァイオリニスト、フリッツ・クライスラーの伝説的な連続リサイタルがあった。むろん大入りである。東京の音楽市場は急に国際的に華やかになった。日本に行けば銭になる！わが国が東洋におけるコンサート・ツアーやオペラ巡業の行き先のひとつに本格的に選ばれ始めた元年。それもまた1923年だったのだろう。

東支鉄道交響楽団招聘計画

上手な白系ロシア人の亡命楽士たちを核にした東京シンフォニー・オーケストラの活躍に、海軍シンフォニー・オーケストラの大躍進に、来日演奏家ラッシュ！これら1923年的現象から、山田耕筰は完全に置いてきぼりをくった。慌てて大政治家、後藤新平による日ソ国交樹立交渉に便乗し、ハルビンを本拠とする白系ロシア人のオーケストラにして、日本に亡命済みの白系ロシア人音楽家たちよりも一枚上手の面子が揃っているという東支鉄道交響楽団の招聘を計画し、後藤の支持も得て、楽壇における覇権の回復をはかった。同交響楽団を率いていたのはエマヌエル・メッテル。サンクトペテルブルク音楽院でグラズノフらに学び、ロシア各地の歌劇場や交響楽団でキャリアを積み、ハルビンに逃れて当地で一番の指揮者と称えられていた。メッテルならゲルシュコヴィチにも勝てる。そう山田は踏んでいたのだろう。

では、東支鉄道交響楽団を来日させて、それからどうしようと考えていたのか。1926(大正15)年7月に萬朝報社から刊行された『新日本史』で山田は洋楽史のパートを執筆しているが、そこにはこうある——「当初の計画では、ロシアから三十余名の優秀な楽手を招聘し、これに若干の邦人を加へ、連続的に定期の演奏を、全国の各重要都市において開催する一方、邦人楽手の養成を計り、将来は邦人のみよりなる大交響楽団を組織するつもりで、この楽団の維持の方法としては、富豪その他の援助をさげて、会員組織により、堅実な歩みが続けて行きたいといふのであつた」。

どういうことか。山田は東支鉄道交響楽団のメンバーをまとめて引き抜いて、東京シンフォニー・オーケストラに対抗できる、やはり同じように白系ロシア人+「若干の邦人」から成る交響楽団を立ち上げようとしていたと解されるのではないか。もはやシベリアのみならず、北満州のハルビンにもソ連の影響力が及びつつある。白系ロシア人の権益がハルビンで守られ続けるかは微妙な時期になってきている。日本か上海かアメリカあたりに移りたい音楽家も多いただろう。好機なのだ。

しかし山田にはお金がない。三菱財閥の総帥、岩崎小彌太とは表向きはもう切れている。お金がないから交響楽運動を仕切り直そうと思ひながら大胆な行動にも出られず、大倉喜七郎にも出し抜かれたのだ。ところがこのときの急な強気はどうしたところか。注目すべき事実がある。1923年8月中旬に山田はハルビンへと出発した。早くから後藤新平や南満州鉄道

や外務省に手を回していた山田である。すでに下交渉は済んでいたろう。契約書を交わすだけのところまで行っていたはずだ。そのハルビン行きに同行したのは劇作家の松居松葉。単なる劇作家ではない。芝居や映画に強い松竹や、百貨店の三越に、大きな発言力を持っていた。彼が山田と行動を共にし、わざわざハルビンまで出向く。まさか物見遊山ではあるまい。事実は詳らかでないが、山田は大倉財閥に対抗すべく、大スポンサーを付けることに成功していたのだろう。そうでなければ急に外来オーケストラの興行を打てるわけではない。

山田は今日の貨幣価値にして数千万円を、ハルビン行きにあたって用意していたという。松竹か三越か、それとも第3の企業か。とにかく山田と松居が契約を交わしたまさにそのとき、日本で大地震は起きた。東京は焼け野原となり、ゲルシュコヴィチは日本での音楽活動の継続に自信を失い、神戸からアメリカへ去った。東京シンフォニー・オーケストラも解散。山田の計画もいったん破算となったが、最大のライバルもまた天災によって消滅した。財界の巨頭、渋沢栄一は、大震災を奢れる日本人への天譴と呼んだが、山田にとっての大震災は起死回生のチャンスとなったのである。

文 | 片山杜秀(かたやま もりひで)

思想史研究者、音楽評論家。慶應義塾大学法学部教授。2008年、『音盤考現学』『音盤博物誌』で吉田秀和賞、サントリー学芸賞を受賞。『クラシックの核心』『ゴジラと日の丸』『近代日本の右翼思想』『未完のファッション』『見果てぬ日本』ほか著書多数。

次回予告

大震災でいったん振り出しに戻った「一流のロシア人オーケストラ招聘計画」。山田耕筰が打った次の一手とは――。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役社長 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 吉田淳一
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 深澤祐二
株式会社 みずほ銀行	頭取 藤原弘治
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 Christian Wiedmann
ユナイテッド航空会社	アジア太平洋・大西洋地区営業担当副社長 Marcel Fuchs
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平子裕志
株式会社 松尾楽器商会	代表取締役 松尾治樹
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 中田卓也
株式会社 パレスホテル	代表取締役社長 吉原大介

賛助会員

・ 常陸宮	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 近藤雄一郎
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 片倉正美	・ SCSK(株) 代表取締役社長執行役員 最高執行責任者 谷原 徹
・ アイシン・エィ・ダブリュ(株) 取締役社長 尾崎和久	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 小野木昌史
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ 伊東国際特許事務所 会長 伊東忠彦	・ (一財)NHK インターナショナル 理事長 小泉公二
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表取締役社長兼CEO 小路明善	・ 井村屋グループ(株) 代表取締役会長 浅田剛夫	・ NHK 営業サービス(株) 代表取締役社長 松原洋一
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役会長 鈴木幸一	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 熊楚御堂朋子
・ 朝日信用金庫 理事長 橋本 宏	・ (株)ウイングツー 代表取締役 福田健二	・ (一財)NHK エンジニアリングシステム 理事長 山本 真
・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 高波博之	・ AGC(株) 代表取締役兼社長執行役員 平井良典	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 安齋尚志
・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史		

- ・(学)NHK学園
理事長 | 浜田泰人
- ・(株)NHK グローバルメディアサービス
代表取締役社長 | 荒木裕志
- ・(一財)NHK サービスセンター
理事長 | 黄木紀之
- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 森永公紀
- ・(株)NHK テクノロジーズ
代表取締役社長 | 大橋一三
- ・(株)NHK ビジネスクリエイティブ
代表取締役社長 | 谷弘聡史
- ・(株)NHK プロモーション
代表取締役社長 | 風谷英隆
- ・(一財)NHK放送研修センター
理事長 | 原田達也
- ・(株)エヌオーイー
代表取締役社長 | 橋本肇
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 井伊基之
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 松原和彦
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 庄野 道
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 樋口達夫
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 蓮輪賢治
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 柳川 淳
- ・岡崎耕治
- ・沖電気工業(株)
代表取締役執行役員 | 鎌上信也
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 星野晃司
- ・花王(株)
代表取締役 社長執行役員
長谷部佳宏
- ・カシオ計算機(株)
代表取締役社長 | 櫻尾和宏
- ・鹿島建設(株)
代表取締役社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役社長 | 加藤浩章
- ・角川歴彦
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチュア・エンタテインメント(株)
代表取締役社長 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 社長執行役員
仲摩俊男
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 千田哲也
- ・キッコーマン(株)
取締役名誉会長 | 茂木友三郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 三宅国紀
- ・(株)共同通信会館
代表取締役 | 牧野和宏
- ・(一社)共同通信社
社長 | 水谷 亨
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役社長 | 磯崎功典
- ・キングレコード(株)
代表取締役 | 村上 潔
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 山田晴彦
- ・グラフェンプラットフォーム(株)
代表取締役 | 長谷川正治
- ・京王電鉄(株)
代表取締役 | 紅村 康
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 | 小林敏也
- ・KDDI(株)
代表取締役社長 | 高橋 誠
- ・京浜急行電鉄(株)
取締役社長 | 原田一之
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)サウンド&ミュージック クリエーション
代表取締役 | 河合由里子
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下宗昭
- ・(株)サコ コンサルタント
取締役 総務部長 | 大森 保
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役社長 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役社長 | 富田 稔
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 新浪剛史
- ・JXTGホールディングス(株)
代表取締役社長 | 杉森 務
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)ジュビターテレコム
代表取締役社長 | 石川雄三
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役社長 | 白川亜弥
- ・新赤坂クリニック
名誉院長 | 松木康夫
- ・信越化学工業(株)
代表取締役会長 | 金川千尋
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・(株)スカパーJSATホールディングス
代表取締役社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役社長 | 古江訓雄
- ・スズキ(株)
代表取締役社長 | 鈴木俊宏
- ・鈴木美代
- ・住友商事(株)
代表取締役社長執行役員 CEO
兵頭誠之
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・住友電設(株)
取締役社長 | 坂崎全男
- ・セイコーホールディングス(株)
代表取締役会長兼グループCEO
服部真二
- ・聖徳大学
学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
取締役社長 | 喜多村樹美男

- ・ 関彰商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・ (株)セノン
代表取締役 | 小谷野宗靖
- ・ 全国農業協同組合連合会
経営管理委員会 会長 | 長澤 豊
- ・ (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長CEO | 村松俊亮
- ・ 損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 西澤敬二
- ・ 第一三共(株)
代表取締役会長 | 中山譲治
- ・ ダイキン工業(株)
取締役社長 | 十河政則
- ・ 大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・ 高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・ (株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・ (株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 佐々木正人
- ・ 田原 昇
- ・ 中外製薬(株)
代表取締役会長 | 小坂達朗
- ・ (株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 五十嵐 博
- ・ (株)TOKAIホールディングス
代表取締役社長 | 鶴田勝彦
- ・ 東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 金子 慎
- ・ 東急(株)
取締役社長 | 高橋和夫
- ・ (株)東急文化村
代表取締役社長 | 中野哲夫
- ・ (株)東京交通会館
取締役社長 | 八木橋孝男
- ・ 東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・ 東武鉄道(株)
取締役社長 | 根津嘉澄
- ・ 東邦音楽大学
理事長・学長 | 三室戸東光
- ・ 桐朋学園大学
学長 | 梅津時比古
- ・ 東邦ホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 濱田矩男
- ・ (株)東北新社
代表取締役社長 | 二宮清隆
- ・ (一財)凸版印刷三幸会
代表理事 | 足立直樹
- ・ トヨタ自動車(株)
代表取締役社長 | 豊田章男
- ・ 内外施設工業(株)
取締役会長 | 林 正道
- ・ 中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・ (株)日放ツールスト
代表取締役社長 | 谷本佳則
- ・ 日本ガイシ(株)
取締役社長 | 大島 卓
- ・ (株)日本国際放送
代表取締役社長 | 城本 勝
- ・ 日本通運(株)
代表取締役社長 | 齋藤 充
- ・ 日本電気(株)
代表取締役 執行役員社長
新野 隆
- ・ 日本土地建物(株)
代表取締役社長 | 平松哲郎
- ・ (一財)日本放送協会共済会
理事長 | 北爪秀樹
- ・ 日本郵政(株)
取締役兼代表取締役社長 | 増田寛也
- ・ (株)ニフコ
代表取締役社長 | 山本利行
- ・ 野村ホールディングス(株)
代表執行役員社長 | 奥田健太郎
- ・ パナソニック(株)
代表取締役社長 | 津賀一宏
- ・ (有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・ 東日本電信電話(株)
代表取締役社長 | 井上福造
- ・ (株)日立製作所
執行役員社長 | 東原敏昭
- ・ (株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・ 福田三千男
- ・ 富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・ 富士通フロンテック(株)
代表取締役社長 | 川上博亨
- ・ 古川建築音響研究所
所長 | 古川宣一
- ・ (株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原慶三
- ・ (株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 井上樹彦
- ・ (公財)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ 前田工織(株)
代表取締役社長兼COO | 前田尚宏
- ・ (株)松尾楽器商会
代表取締役 | 松尾治樹
- ・ 丸紅(株)
代表取締役社長 | 柿木真澄
- ・ 溝江建設(株)
代表取締役社長 | 溝江 弘
- ・ 三井住友海上火災保険(株)
取締役社長 | 原 典之
- ・ (株)三井住友銀行
頭取 | 高島 誠
- ・ 三菱商事(株)
代表取締役社長 | 垣内威彦
- ・ 三菱電機(株)
執行役員社長 | 杉山武史
- ・ (株)緑山スタジオ・シティ
代表取締役社長 | 難波一弘
- ・ 三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
- ・ 三原穂積
- ・ (学)武蔵野音楽学園
理事長 | 福井直敬
- ・ (株)明治
代表取締役社長 | 松田克也
- ・ (株)明電舎
取締役社長 | 三井田 健
- ・ (株)目の眼
代表 | 櫻井 恵
- ・ 森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
- ・ 森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔

- ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
- ・(株)山野楽器
代表取締役社長 | 山野政彦
- ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 押木正人
- ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
- ・米澤文彦
- ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 藤沼大輔

- ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 坂元 隆
- ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員
坂主智弘
- ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
- ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
- ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 戸張誠二

- ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員
松本 功
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 中野健次
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：『フィルハーモニー』、『年間パンフレット』、『第9』演奏会プログラム等にご芳名を記載させていただきます。

N響主催公演のご鑑賞の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL: 03-5793-8120

NHK交響楽団

首席指揮者：パーヴォ・ヤルヴィ

名誉音楽監督：シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者：ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者：ウラディーミル・アシュケナージ

正指揮者：外山雄三、尾高忠明

第1コンサートマスター：篠崎史紀

コンサートマスター：伊藤亮太郎

ゲスト・コンサートマスター：ライナー・キュッヒル、白井 圭

第1ヴァイオリン

青木 調
字根京子
大鹿由希
倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
○松田拓之
宮川奈々
○森田昌弘
○山岸 努
□横島礼理
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

◎大林修子
◎大宮臨太郎
木全利行
齋藤麻衣子
嶋田慶子
○白井 篤
鈴木弘一
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
○三又治彦
宮里親弘

矢津将也
山田慶一
横山俊朗
米田有花

ヴィオラ

◎佐々木 亮
◇川本嘉子
小野 聡
小島茂隆
坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村翔太郎
○中村洋乃理
松井直之
御法川雄矢
○村松 龍
山田雄司

チェロ

◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
三戸正秀
中 実穂
○西山健一
○藤村俊介
宮坂拓志
村井 将
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

◎吉田 秀
☆市川雅典
☆西山真二
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
佐川裕昭
本間達朗
矢内陽子

フルート

◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
菅原 潤
中村淳二

オーボエ

◎青山聖樹
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

◎伊藤 圭
◎松本健司
山根孝司

ファゴット

◎宇賀神広宣
◎水谷上総
佐藤由起
菅原恵子
森田 格

ホルン

◎今井仁志
◎福川伸陽
石山直城
勝俣 泰
木川博史
野見山和子

トランペット

◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
山本英司

トロンボーン

◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
栗田雅勝
黒金寛行
吉川武典

テューバ

池田幸広

ティンパニ

◎植松 透
◎久保昌一

打楽器

石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハープ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉
深畑一徳

ライブラリアン

沖 あかね
木村英代

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター)

Information

新入団 チェロ 小島幸法(こばたけ ゆきのり) 2021年2月1日付で入団。

訃報 当団元トロンボーン奏者(1966年5月入団)で団友の牧野守英(まきの もりひで)氏が2020年12月31日に逝去されました。享年87。謹んでご冥福をお祈りいたします。

2020-21シーズン公演日程

	サントリーホール 土6:00pm / 日2:00pm	東京芸術劇場 金7:00pm / 土2:00pm	サントリーホール 水7:00pm / 木7:00pm
20 21	04 10土 11日 6:00pm 2:00pm*	16金 17土	21水 22木
05 15土 16日 6:00pm 2:00pm*	21金 22土	26水 27木	
06 5土 6日 6:00pm 2:00pm*	11金 12土	16水 17木	

NHKホール改修工事のためサントリーホールに
会場を移して行います。
※2日目の開演時刻は午後2時となります。

2021-22定期公演予定(日程・指揮者)

	池袋A	B	池袋C
	東京芸術劇場 土夜／日昼	サントリーホール 水夜／木夜	東京芸術劇場 金夜／土昼
2021 09	9/25(土) 26(日) 指揮:沼尻竜典	9/15(水) 16(木) 指揮:トン・コープマン	9/10(金) 11(土) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
2021 10	10/16(土) 17(日) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット	10/27(水) 28(木) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット	10/22(金) 23(土) 指揮:ヘルベルト・ プロムシュテット
2021 11	11/13(土) 14(日) 指揮:ファビオ・ルイージ	11/24(水) 25(木) 指揮:ファビオ・ルイージ	11/18(木) [*] 19(金) 指揮:ファビオ・ルイージ <small>★通常土曜日昼の公演を 木曜日夜に開催します</small>
2021 12	12/4(土) 5(日) 指揮:山田和樹	12/15(水) 16(木) 指揮:ディマ・スロボデニューク	12/10(金) 11(土) 指揮:ワシーリ・ベトレニコ
2022 01	1/15(土) 16(日) 指揮:原田慶太楼	1/26(水) 27(木) 指揮:トゥガン・ソヒエフ	1/21(金) 22(土) 指揮:トゥガン・ソヒエフ
2022 02	2/5(土) 6(日) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	2/16(水) 17(木) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ	2/11(金) 祝 12(土) 指揮:パーヴォ・ヤルヴィ
2022 04	4/9(土) 10(日) 指揮:クリストフ・ エッセンバッハ	サントリーホールの 改修事に伴い 公演を休止します	4/15(金) 16(土) 指揮:クリストフ・ エッセンバッハ
2022 05	5/14(土) 15(日) 指揮:マレク・ヤノフスキ	5/25(水) 26(木) 指揮:ファビオ・ルイージ	5/20(金) 21(土) 指揮:ファビオ・ルイージ
2022 06	6/11(土) 12(日) 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ	6/22(水) 23(木) 指揮:鈴木優人	6/17(金) 18(土) 指揮:ステファヌ・ドゥネーヴ

※今後の状況によっては、出演者等が変更になる場合や、公演が中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。

2021-22シーズン定期公演の開催について

〈A・Cプログラム〉NHKホール等の改修事に伴い、東京芸術劇場(池袋)で行います。

〈Bプログラム〉サントリーホールの改修事に伴い、2022年4月の公演を休止します。2021-22シーズンは1日目、2日目ともに8回ずつの開催となります。

・曲目や公演の詳細は2021年3月頃に発表する予定です。

・休止となった2020-21シーズン定期会員券の継続手続きをされた方には、2021年4月頃に別途ご案内をお送りします。

Iwatani

水素で 世界を動かせ。

時代が問う。人類は次の100年を託せるエネルギーを持っているか。

私たちには、水素がある。燃焼してもCO₂を排出せず、

大きなパワーを生み、枯渇することがない水素は今、

発電、車両、鉄道、船舶、製鉄などさまざまな分野で、

脱炭素エネルギーの主演として大きな期待を集めている。

だから、もっと進もう。2050年、温暖化ガス排出実質ゼロ社会の実現を目指して。

水素で、社会を、時代を、世界を動かせ。

日本には、未来を変えるエネルギーがある。

水素シェア No.1[※]

Iwatani
岩谷産業株式会社

※岩谷産業株式会社は、水素ガスの販売において国内市場シェア約70%を占めています。(2020年12月現在、自社調べ)